

## 正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申し上げます（2020年4月24日）

### ■第1版 第1刷（2019年2月26日発行）の修正・更新箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
3 【抗菌薬の基礎知識②】 カルバペネム系・抗MRSA薬					
41	引用文献	4) 「Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases」(Bennett JE, et al, eds), p296, Saunders, 2014 5) 「Kucers' The Use of Antibiotics: A Clinical Review of Antibacterial, Antifungal, Antiparasitic, and Antiviral Drugs, Seventh Edition」(Grayson ML, et al, eds.), p710, CRC Press, 2017 6) Healy DP, et al: Vancomycin-induced histamine release and "red man syndrome": comparison of 1-and 2-hour infusions. Antimicrob Agents Chemother, 34:550-554, 1990 ↑日々の感染症全般において、手の空いたときにじっくりと成書に立ち返ると毎回大きな発見が何歳になってもあるものです。余裕のある人は感染症領域の成書である本書をぜひ一度は手にとってみてください。	4) 「Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases」(Bennett JE, et al, eds), p296, Saunders, 2014 ↑日々の感染症全般において、手の空いたときにじっくりと成書に立ち返ると毎回大きな発見が何歳になってもあるものです。余裕のある人は感染症領域の成書である本書をぜひ一度は手にとってみてください。 5) 「Kucers' The Use of Antibiotics: A Clinical Review of Antibacterial, Antifungal, Antiparasitic, and Antiviral Drugs, Seventh Edition」(Grayson ML, et al, eds.), p710, CRC Press, 2017 6) Healy DP, et al: Vancomycin-induced histamine release and "red man syndrome": comparison of 1-and 2-hour infusions. Antimicrob Agents Chemother, 34:550-554, 1990	コメントを文献6)から文献4)に移動	19/02/26
8 【診断のためのアプローチ①】 市中の発熱へのアプローチ：感染症と身体所見					
100	7) 皮膚軟部組織・関節 ①皮膚所見は大きな手がかり上から3行目	丹毒は <b>表皮</b> まで。蜂窩織炎はより深い真皮・皮下組織までの炎症です。	丹毒は <b>真皮</b> まで。蜂窩織炎はより深い真皮・皮下組織までの炎症です。		20/04/24
14 菌血症のマネジメント					
159	3) 黄色ブドウ球菌(MSSA): 第1選択の抗菌薬は? 上から11~12行目	セファゾリン[1回1~2mg, 8時間ごと(腎機能正常時)]	セファゾリン[1回1~2g, 8時間ごと(腎機能正常時)]		19/03/11